

少なくありません。しかし、ここ数年の Os に関する報告論文数を見るだけでも、質量分析計の進歩にともなう Re-Os 年代測定法の実用化は相当な勢いで進んでいます。ここで紹介した Re-Os 年代測定法の鉄隕石・石鉄隕石への応用は、Re-Os 年代測定法の適用例の一端に過ぎないことを強調しなければなりません。白金族元素を用いた地球化学的研究の重要性には多言を要しないでしょうが、これから近い将来、白金族パターン（希土類元素における Masuda-Coryell Plot に等しい）と Re-Os 年代測定法の実用化は、インフレーション的な勢いで進むものと考えております。

最後になりましたが、地殻化学部の田中 剛博士、富樫茂子博士には、原稿作成にあたり貴重な助言をいただきました。ここに、感謝の意を表したいと思います。

引用文献

FAURE, G. (1986): Principles of Isotope Geology 2nd Edition: John Wiley and Sons (New York).

GRAY, A. L. (1988): Inductively coupled plasma source mass spectrometry. in Adams, F., Gijbels, R. and Van Grieken, R., ed., Inorganic Mass Spectrometry: John Wiley and Sons (New York).  
 MCSWEEN JR., H. Y. (1987): Meteorites and Their Parent Planets: Cambridge University Press (New York).  
 小沼直樹 (1987): 始原惑星物質: 隕石. 「地球科学 13」小沼直樹, 水谷 仁篇, 岩波書店, 89~150.  
 ROWLAND, I. D. (1990): A contemporary account of the Ensisheim meteorite, 1492: Meteoritics, 25, 19~22.  
 SCOTT, E. R. D. (1972): Chemical fractionation in iron meteorites and its interpretation: Geochim. Cosmochim. Acta, 36, 1205-1236.  
 WASSON, J. T. (1985): Meteorites: Their Record of Early Solar-System History: W. H. Freeman and Company (New York).

HIRATA Takafumi and MASUDA Akimasa (1990): Re-Os systematics on iron and stony iron meteorites.

<受付: 1990年8月16日>

豆辞典

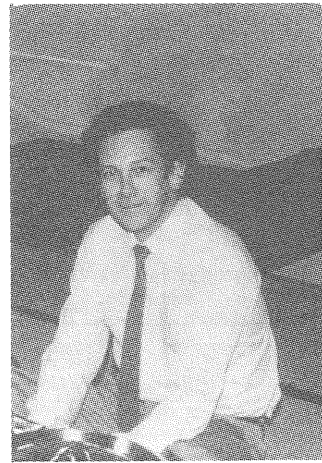
アラン・デート メモリアル賞

地球科学にはその歴史の長さを物語るように、幾多の学会賞があり、それらのいくつかは広く世界にまたがる業績を対象としている。アラン・デート メモリアル賞もその1つである。

アラン・デート博士 (Dr. Alan Richard DATE) は、英国地質調査所において、高周波誘導結合プラズマ質量分析法 (ICP-MS) を用いた地球科学試料の化学分析の第一人者であった。DATE 博士は希土類元素、白金族元素において先駆的な研究を行い、地球科学における ICP-MS の重要性を広めた (1986年には筑波の地質調査所も訪問されている) が、1988年ガンのため弱冠 44 歳で他界した。

ICP-MS を始めて市販した、英国の VG・Elemental 社は、彼の偉業を称え、この賞を設けた。この賞は、英国化学会の監修のもとに毎年一人ないし二人の、特に若い科学者に与えられる。

昨年度はカナダの D. BEACHEMIN と英国の K. JARVIS の二人に与えられ、本年度は地質調査所地殻化学部の平田岳史技官が本賞を受賞した。賞の対象は「ICP-



Alan Richard DATE, 1943-1988

MS を用いた極微量のレニウム、オスミウム分析法の開発」で、この手法は太陽系および地球の形成時期におけるコア・マントル・地殻の相互関係を時間軸を含めて解析できる最も優れたものとなろう。

(地殻化学部 田中 剛)